

# 熊本市 感染症発生動向調査 速報



## ●インフルエンザの警報レベルが続いています

感染症発生動向調査で、熊本市の第9週(2月27日～3月5日)の定点医療機関あたりの患者報告数は、前週17.76人➡今週11.68人(定点数25ヶ所、患者報告数前週444人➡今週292人)と前週から減少しましたが、引き続き感染予防に努めましょう。



## ●感染性胃腸炎(ウイルス性胃腸炎)に引き続き注意して下さい

### ◆感染性胃腸炎とは？

感染経路はほとんどが経口感染で、感染性胃腸炎という診断名は、多種多様な原因によるものを包含する症候群です。病原体の多くは細菌、ウイルス、寄生虫が本疾患の起病病原体となりえます。細菌性のもものでは腸炎ビブリオ、病原性大腸菌、サルモネラ、カンピロバクターなど、ウイルス性のもものではノロウイルス(SRSV)、ロタウイルス、腸管アデノウイルスなどがみられます。寄生虫ではクリプトスポリジウム、アメーバ、ランブル鞭毛虫などがあげられます。



### ◆11月～3月に多くみられるノロウイルスの感染経路は？

- (1)患者のノロウイルスが大量に含まれる便や嘔吐物から人の手などを介して二次感染した場合
- (2)家庭や共同生活施設などヒト同士の接触する機会が多いところでヒトからヒトへ飛沫感染等直接感染する場合
- (3)食品取扱者(食品の製造等に従事する者、飲食店における調理従事者、家庭で調理を行う者などが含まれます。)が感染しており、その者を介して汚染した食品を食べた場合
- (4)汚染されていた二枚貝を、生あるいは十分に加熱調理しないで食べた場合
- (5)ノロウイルスに汚染された井戸水や簡易水道を消毒不十分で摂取した場合 などがああります。

いずれの感染予防にも手洗いが有効です。  
 流行期には人混みを避け、帰宅時や食事の前、トイレの後に、流水と石けんでよく手を洗いましょう。

[※厚生労働省「ノロウイルスに関するQ&A」と国立感染症研究所「感染性胃腸炎とは」から引用 詳しくは外部リンクを下のほうに載せています。]

期 間		平成29年 第8週		平成29年 第9週	
		2/20～2/26		2/27～3/5	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		444	17.76	292	11.68
RSウイルス感染症		1	0.06	1	0.06
咽頭結膜熱(プール熱)		5	0.31	6	0.38
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		34	2.13	36	2.25
感染性胃腸炎		110	6.88	78	4.88
水痘(みずぼうそう)		7	0.44	6	0.38
手足口病		8	0.50	7	0.44
伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	2	0.13
突発性発しん		9	0.56	5	0.31
百日咳		0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ		0	0.00	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		14	0.88	6	0.38
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		13	2.60	9	1.80
細菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00
無菌性髄膜炎		1	0.20	1	0.20
マイコプラズマ肺炎		2	0.40	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		1	0.20	1	0.20